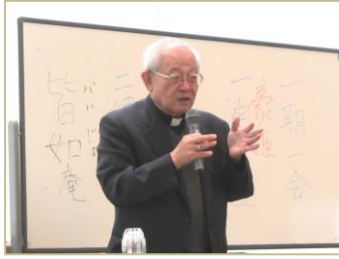


# 「信仰年」にあたり高山右近の霊性に学ぶ あけの星会講演会 講師 溝部 脩司教

11月5日(火)、暖かい秋の日に、日本カトリック女性団体連合会とあけの星会共催による講演会が元寺小路教会で開催され、青森岩手、宮城、福島各県と東京から約200名が参加した。

溝部脩司教(高松教区名誉司教)は、高山右近の茶人としての姿から話し始めた。右近の茶は、風流がなく「清すぎる」と言われていた。これは、右近の清潔な、潔癖な、筋を通していく性格を表していたと思



高山右近は、茶人千利休の7人の高弟のひとりであった。利休と右近は、その性格やものの考え方が良く似ていたと思う。

豊臣秀吉からキリスト教を捨てるよう強要され、「それは、できません」ときっぱりと断った。秀吉に対して「ノー」を突きつけたのは右近だけだった。

利休も右近に対して、棄教を促したが、主君の命令に背いても志を変えないのが真の武士であると答え、利休に説得を諦めさせた。一方、利休が求めた「わび」、「さび」の茶道に対して秀吉が黄金の茶室を造り、豪華さを派手さを求

決して迎合せず、秀吉の逆鱗に触れ、切腹を命じられた。

日本のお茶は、騒然とした市中に、庵を設け、その中で静かにお茶をたてながら、自分と向き合っていく、自分というものを見つめ直す場でもあった。

お茶は、単なる遊びごとではない。おけいこ事でもない、自分と対峙する神聖で、真剣勝負の場である、何よりも和を求め、**「調和」**、**「バランス」**を大切にすると右近は考えていた。

茶道でよく言われる「二期一会は、今の出会い、このひととき、この空間を大切にするといいことです。さらに、茶室に入ったら、身分も社会的な立場も全部脱ぎ捨てて一人の人間としてその場に共にいる人たちと分かち合う、という精神です。そこには、敵も味方もない。

右近の茶室は祈りの場であり、瞑想の場、黙想の場であった。右近の茶室によく出入りしていた若い武士たちが、大勢キリスト教の洗礼を受けている。それは、右近に説得されたからではなく、時代の流れを吸い取って、何か新しい生き方を求めていたからだと思われる。

めた。利休は秀吉のやり方に対して、

現代の若者にも新しい魅力があるキリスト教の宣教が出来ないものかと思えます。

高山右近は、日本人としてキリスト教をどっしりととらえ自分のものとして、伝えていった人だと思つています。そういう意味で高山右近の列福を推進していきたいと思えます。

講演を聞いた、郡山教会の佐藤薫さんは、「一期一会の茶席においてはお客に客に対してあらゆる心を配り、おもてなしをするように、わたしたちも神様に対してそのようなしなければならぬのでしよう。隣人に対して愛を持って奉仕していく心が絶えず求められていると思えます。

右近の信念を貫く生き方を見習い、今を生きる私たちも、他者に対する生き方を顧みなければならぬと感じました。と、感想を寄せてくださいました。講演後、昼食を取りながら、久しぶりにお会いした溝部司教を囲んで歓談し、溝部司教のミサにあずかり、感謝のうちに散会した。

## 「信じるものは、なんと幸い」 第36回「聖霊による刷新東北大会」

10月25日〜27日、仙台市太白区にある茂庭荘において開催し、東北はもとより、関西、関東の方々も含め、約50名が参加した。「信じるものは、なんと幸い」を

## 聖ウルスラ修道会 本部修道院・一本杉教会 落成感謝ミサと祝賀会

若林区一本杉にある聖ウルスラ修道院の建て替えに伴い隣接の一本杉教会も含めた新築工事は、2011年10月9日に、旧聖霊の最終ミサから、約2年余りをかけての工事が終了し12月9日(月)無原罪の聖マリアの祭日に落成感謝ミサと祝賀会が行われた。

感謝ミサは、平賀徹夫司教の司式でおこなわれ、工事関係者、町内会、仙台中央地区教会の信者らを含めて約200名が参加した。平賀司教は、「この修道院と教会は、地域の人々の祈りの場です。地域に開かれたものとして地の



塩、世の光となつてください」と祝辞を述べた。建築にあつた清水建設は「100年建築」をテーマに、地域の景観をより一層引き立てるものとして設計したとのこと。

ミサ後、聖ウルスラ修道会管区長から、設計・施工に従事した

方々に感謝状が授与され、祝賀会が行われた。

テーマに、講師の畠基幸神父(御受難修道会)は、「信仰の出発点は、主の呼びかけに答えることであり、アブラハムは、主の呼びかけに答えて、主の言葉に従い旅立ちました。アブラハムの信仰の旅は、私たちの生涯の旅でもありません。」さらに、ルカ福音書からマリアのエリザベト訪問の場面を

ア様の出来事は本当に中心のことです。信仰の模範をいただいて私たちが、この豊かな恵みを生かすことができるよう、お願いいたします。マリア様が幼な子のような者として、最初にお告げの通り体験された聖霊体験を通して、みことばが人となられた受肉の神秘を教会は、聖霊降臨の恵みによって受け継いでいます。またキリストを通して全ての人が、あらゆる霊的な祝福をもって祝福されているのです。」と熱く話された。



第36回「聖霊による刷新東北大会」  
信じる者は、なんと幸い!

私たちが「ハイ」と答えることができます様に、聖霊の助けを願いながら、信仰の道を歩んでいきたいと思えます。(一本杉教会 大友愛子)